

（公社）日本給食サーブス協会会長賞

『極上野菜のおくり物』

福島県西白河郡西郷村立米小学校 四年一組 女子 尾股 朋香

「やった。今日も手紙がとどいた。」
毎日の給食で、わたしには、ある人からの手紙がとどきます。さし出し人は、おじいちゃんとおばあちゃんです。

おじいちゃんとおばあちゃんは、給食で使われている野菜を育てています。春にはキャベツやブロッコリー、アスパラガス。夏には、ミニトマトやきゅうり、なす、すいか。そして、秋には、またキャベツやブロッコリーを。どの野菜を食べても、とてもみずみずしく、じんわりあまみがあつて、極上野菜ばかりです。

これらの野菜を育てるために、おじいちゃんとおばあちゃんは、心がけていることが二つあるそうです。

一つ目は、安全で安心な野菜を育てることです。特に土作りにはこだわっています。貝を粉々にして、土にまぜているそうです。すると、貝がこきゅうをし、自然の森や林の土に近いじょうたいになるそうです。

このような土だからこそ、野菜が元気に育ち、わたし達にとって、安全で安心な野菜になるというわけです。

二つ目は、野菜を、孫であるわたしだと思つて育てているということです。おじいちゃんとおばあちゃんは、毎日畑に出かけ、

「おいしくなるんだよ。」
「大きくなるんだよ。」

と野菜に話しかけているそうです。すると、おじいちゃんとおばあちゃんの気持ちが野菜にとどき、野菜が生き生きとしてくるそうです。

「野菜と話をしていると、朋香の笑っている顔が浮かんでくるんだよ。」
と話してくれました。

このように、おじいちゃんとおばあちゃんの愛情がこめられている野菜ですから、極上野菜となるわけです。

安全で安心な極上野菜をたっぷり使っているのが、わたしの住む西郷村の学校給食です。西郷村では、マクロビ給食をすい進めています。魚や野菜や大豆を使った、和食中心のメニューがマクロビ給食です。おじいちゃんとおばあちゃんの野菜が、具だくさん味噌汁やじゅうねん和えなどになって、毎日わたしのものとどくのです。一口食べると、

「朋香、おいしいかい。」
もう一口食べると、
「朋香、大きくなるんだよ。」

最後の一口を食べると、
「全部食べてくれてありがとう。これからも極上の野菜を育てていくからね。」

という、おじいちゃんとおばあちゃんの声が、わたしには聞こえてくるのです。だからわたしは、おじいちゃんとおばあちゃんからの極上野菜のおくり物を、感謝しながら残さずに食べるという返事を送りたいと思います。